

令和6年度 第2回 学校運営協議会（議事録）

I 日 時 令和6年11月2日（土） 10:00 ～ 12:00

※ 公開授業日

II 場 所 静岡県立浜松湖東高等学校 小会議室

III 出席者（委員、敬称略）

新井立夫（文教大学教授）、山口権治（第一学院高等学校顧問）

村松俊司（神久呂協働センター所長）、鈴木恵子（認定 NPO 法人魅惑的倶楽部理事長）

松浦洋一郎（本校後援会長）

欠席者

神間智博（本校同窓生）

本校職員

渥美真人（校長）、猿田かおる（副校長）、萩原英城（教頭 授業のため欠席）

諸井康恵（事務長）

V 内 容

1 校長挨拶

お忙しい中またお休みの中、お集まりいただきましてありがとうございます。後ほど、副校長から今年度の取組について話がありますので、私からは次年度に向けた取組を簡単にお話させていただいて、挨拶に代えさせていただきます。

次年度に一番大きくやっていきたいのは探究学習です。2年生の「コーポレートアクセス」をシジクリプロジェクトの「エンジン」に変えます。地元の企業になるので、オンラインではなく学校に来てもらえます。教員側の研修も企業と一緒にやってくれるので、若手教員の育成という点からとても良い機会になります。また、校内研修は4年連続で授業研究をやってきましたが、次年度からは探究にシフトしていきます。中長期的な形で「探究と言ったら湖東だね。」と言われるようにしていきたい。これが、出口（総合型入試）にも繋がっていくことにもなります。そういうところで突破口を開いていきたいと思っています。

2 議事（進行：会長）

(1) 今年度の本校の取組について（副校長から説明）

ア 学校経営計画の本年度の取組の重点目標について

(ア) 自ら学ぶ習慣を育成し、確かな学力を伸長させる。

- ・生徒の1人1台端末を授業で使って自ら学ぶ姿勢を付けさせるようにしている。
- ・全員がスタディサプリを導入しているので、自分の学びたいことを選んで自分で学習することができるのでそれを活用している。
- ・不登校生徒に対する遠隔授業を実施していく。10月中旬から1名実施しているが、まだ始めたばかりなので、今後改善点を見つけながらやっていきたい。

(イ) 探究的な学びを推進する。

- ・総合的な探究の時間で、1年生は「ソーシャルチェンジ」、2年生は「コーポレートアクセス」を行っている。グループを作り、テーマを決め、そのテーマに沿ってどのように解決に導いていくかグループでまとめていく。3年生になると「課題研究」を行い、1人ずつ課題設定をして探究活動を進めている。今、成果の発表に向けて

まとめの段階に入っている。

- ・授業で取り組んでいるもの以外に「フェアトレード」で協働センター祭りでもコーヒー販売をさせていただいたり、「コトバショ」で近隣の小中学生に学習支援をボランティア的に行ったりしている。有志の生徒が取り組んでいるが、今年この2つが善行賞の表彰を受けることとなった。

(ウ) 研修の充実を図り、その成果を共有することで、指導力の向上を図る。

- ・授業参観ウィークを1学期と2学期に1週間ずつ設けて、互いに授業を見て授業力を向上させる取組を行っている。
- ・授業改善研修会を7月と10月に国立教育政策研究所の白水氏に来ていただき実施した。生徒の主体的な学びを引き出す授業の改善を目指して取り組んできた。

イ 生徒の活動について

- ・2学期始めは台風の影響で2日間休校となってしまった。
- ・体育祭も雨天で3回延期になったが、4回目に実施できた。その様子もInstagramで配信されているので、見ていただきたい。

ウ 部活動について

- ・3年生が1学期で引退し、1・2年生がメインで活動を始めて軌道に乗っているところである。
- ・陸上部の鈴木エミリーさんが走り幅跳びでU18全国大会で3位、東海新人大会で優勝した。ホームメイド部はいろいろなコンテストに参加している。吹奏楽部も地域のイベントに参加したりしていて、各部活動がそれぞれ頑張っている。

(2) 今年度の取組について委員からの質問等

- ・Instagramをフォローしているので、よく見ている。知らない人が見ても生徒の様子がわかりとても良い。とてもわかりやすいが、1人でやっているのか。大変だと思うが、見ている人がいるのを伝えてほしい。

(副校長) 主に情報DX課の教員がやっている。励みになると思うので是非伝えたい。

- ・探究はいいと思うが、不登校の原因は集団にあると思う。探究をやればそういう子は浮き上がるので、その支援として、まずコミュニケーション能力をしっかりとつけてどうやって関わるのかをやってからが理想的である。話し合いに参加できない子もたくさんいるので、その対応をしていかないと不登校が増えるのではないかと危惧している。

(副校長) 入学時に集団生活に慣れるところから始まるが、夏休みを経て不登校傾向になる子も若干出てくる。スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、コーディネーターを中心に個別に手厚く見ているので、なんとかやっている。

- ・不登校を出さない学級集団づくりをやらないと対処療法では元に戻るのが大変である。不登校にならないようにピアサポート等研修をしっかりとやらせると嬉しい。

(校長) 遠隔授業が始まっている。2月に文科省から通知が出て、全県で行っている。病気療養の生徒はすでに行っている。これは学習機会の保障のみではなく、履修を認めるためにやるものである。不登校の生徒も36単位までは認められる。最終的には登校できるようにするのが目的である。本校も2人やっているが、どの学校も手探りでやっている。

- ・心配なのは、先生方の過剰負担。
- ・遠隔授業はZoom会議のような形なのか。

(校長) 教員がタブレットを教卓に置いて黒板を写す形。生徒たちからは受けている子の顔は見えないし、受けている子も生徒たちの顔は見えない。2人ともグループワークには入っていない。

- ・本日配られた資料を見て、かなり新聞に出ているのだなと思った。半年だけでこんなにあるのか。これを読むと交流や「コトバシヨ」に関して学校で力を入れているのがよくわかる。

(校長) 教頭の力が大きい。いつも新聞社に声をかけているのでその成果である。

- ・先生も生徒も自分たちの子供のころと全然違うので大変だと思う。協働センター祭りもあるので、先生方も視野を広げる意味で地域の行事にも是非来てほしい。

(3) まとめ(会長から)

ア 探究について

- ・探究は今、全国の高校と中学校で施行しているが、混乱している。学習指導要領の解説でも探究のことを細かく書いてあるが、ズレているところが、理系的探究と文系的(社会科学的)探究が混在していること。そこを分けていない。
- ・理系的探究は、ないものからあるものを生み出すようなことがある意味の探究である。また、今あるものを違うものに変えていくことである。
- ・社会科学的探究は課題解決型。ある程度ゴールが見えていて、現状との差(課題)をなくするのが課題解決である。
- ・見えていない理系的なものが見えている社会科学的なものを一緒になって探究としてやっているの、ゴチャゴチャになっている。それを整理してテーマを設定させない限り、今のいろいろな学校でやっている総合的な学習の時間の調べ学習をやってまとめて発表する形になってしまう。
- ・湖東高校で探究をメインにしていくのであれば、質的な探究をしていく方がアピールになるのではないか。そうすることによって入試で選別できる。意欲のある子たちが湖東高校に行けば何か向上できるような自分の力を発揮できる場所になるという動機付けになるのかなと思う。
- ・都立本所高校、八潮南高校のように探究をさせることで生徒を確保している学校も出てきている。
- ・総合的な学習の時間ではないというところを先生方に理解していただいて、本当の探究を求めていくことをやっていってもいいのではないかと感じる。

イ 不登校について

- ・全国的に、爆発的に不登校が増えている。
- ・小1、2、3年での暴力的事件と不登校が激増している。
- ・家庭の教育力の低下が原因。
家庭で褒めてやらせていることが多く、学校生活とのギャップが生じる。
小1でスマホを与えてしまうことで、夜遅くまでゲームをやり、眠い状態で学校に来て先生に怒られ、キレたり、暴れたりする。
- ・静かなる家庭崩壊が進んでいる。
家でやっていることをそのまま学校でもやる。やっていいこととダメなことの区別がつかない子が非常に増えている。
先生も保護者からのクレームを恐れて注意できなくなっている。
- ・指導するときはメリハリをつけて、学校として許せることやダメなことを明確に保護

者にもメッセージを送れるようにならないと本来伸びる子が安きに流されてしまう状況が義務教育で起こっているのが現実である。

ウ 学びについて

- ・わかる授業がいいのか？意図してわからないところを残すような授業はすごくいい授業だと思う。7：3の法則（わかるところ7：わからないところ3）というのがある。授業の中でわからないことがあると自分で調べたいとか自分でわかろうとしなければいけないという心が起こってくる。わからないところがあるからわかろうとする、そこを残しておかないと子どもは成長しない。
 - ・先生方が一生懸命やっている姿を生徒に見せることが大切。授業力向上には、先生たちが一生懸命教材研究をして、全身全霊打ち込んで熱い授業をやることが大切。
 - ・本来学校に来る目的は知らないことを教えてもらうこと。できなかったことができるようになるために来るのが学校。困難が絶対伴うものである。
 - ・学ぶとはどういうことか。学びが楽しい（Enjoy）になってしまっている。Enjoyではない楽しさ、できなかったことができるようになる充実感、分からなかったことがわかるようになる達成感が楽しいであって Enjoy とは違う。日本全国では違っている。むしろ学びは困難とか苦勞が伴うもの。
 - ・高校生1人、普通科で1年間に107万円の税金が投与されている。1日休むことでいくらのロスになるか、お金を無駄にするというようなことも考えさせないとダメな時期になってきているのではないか。
 - ・学び自体が Enjoy ではなく困難を伴って乗り越えていくもの。それがやがて社会に出て仕事に繋がっていく。その訓練を学校教育の中でやらずに社会へ出てどうなっていくのか。まずは自分でやるように仕向ける、やらせることが大切。修練とか訓練という意味が学問の中にはあるということを訴えていく必要があるのかなと感じた。
- （校長）企業等では若手とどのように接しているか。
- ・企業と学校では明らかに違う点がある。企業は面接があるので採用する段階で選別できる。来る前に準備ができる。厳しく指導しているが、言っても直らない場合はひたすら言う。辞めてもいいよと言うと奮起する子もいる。その子にあったやり方をする。
 - ・相手も悪気はないと思うのでコミュニケーションを大切にする。コミュニケーションを極力とって、相手の興味を引き出して話を合わせる。仕事を頼む場合も、ただこれをお願いねではなくてやる意味も教える。目の前の人を見て、その人にあったやり方で接する。
 - ・若い子たちはすごく心が弱い。ちょっと言うと休みますという感じになってしまう。
- （校長）本当に休んでしまうとすごく大変。代わりの人がいない。

3 授業参観（4校時 11:15～11:45）

（副校長）授業参観ありがとうございました。どんな様子であったか、また個々にお気づきの点を教えていただけるとありがたいと思います。

4 今年度の日程について

次回第3回を2月12日（水）10時00分～12時00分を予定しています。内容は学校関係者評価です。委員の皆様には、学校関係者評価の評価委員を兼ねていただいておりますので、今回は、学校の自己評価を参考に、評価及び御意見等をいただくことになります。第4回は3月10日（月）10時00分～12時00分の予定で、次年度基本方針の協議となります。よろしくお願いいたします。